

タックスヘイブン日本

立正大学客員教授・税理士 浦野広明

トヨタなど世界中に輸出している巨大企業は、輸出免税制度のおかげで消費税を納めることなく、巨額の還付金を受け取っている。トヨタの2018年3月期決算から還付額を計算すると、1年間で4076億円に上る。消費税率が10%になる5686億円に増える。増税のたびに還付が増える。打ち出の小槌のような制度だ。

アメリカ政府は同制度を「輸出企業に対するリベートだ」と批判しており、トランプ大統領が関税を上げる理由の一つになっている。

還付

優遇

タックスヘイブン(租税回避地)が国際的の問題になっているが、大企業にとっては今の日本がタックスヘイブンであることを見逃してはならない。安倍首相は2013年の施政方針演説で「世界で一番企業が活躍しやすい国を目指します」と述べたが、すでに手厚い租税特別措置(優遇税制)によって税負担が著しく軽減、免除されてい

主要大企業の平均法人3税負担率

法人名	2017年度 (法人実効税率は30.3%から31%)		
	税引前純利益 (億円)	法人3税 (億円)	負担率 (%)
トヨタ自動車	22,381	4,049	18.1
武田薬品工業	2,479	▲46	▲1.9
キヤノン	2,736	493	18.0
三井物産	3,545	▲54	▲1.5
本田技研工業	4,659	597	12.8
丸紅	565	▲66	▲11.6
デンソー	1,809	395	21.8
伊藤忠商事	765	93	12.1
小松製作所	1,710	410	24.0
アステラス製薬	2,916	160	5.5
京セラ	697	154	22.1
いすゞ自動車	699	233	18.8
豊田自動織機	1,141	820	20.3
住友商事	2,100	▲46	▲2.2

出所：菅隆徳「公平税制」第397号 (2018年9月15日)

府歯科技工士会と懇談

危機打開へ23年ぶり

大阪府歯科技工士会の役員らと懇談する小澤理事長と協会役員＝6月12日、保険医会館



7:3問題など意見交換

協会は大阪府歯科技工士会(府技)と6月12日に保険医会館で懇談し、歯科技工の危機打開に向けた取り組みや運動の方向性について意見交換した。府技との懇談は23年ぶり。協会から小澤理事長ら10人が出席し、府技は清水潤一会長はじめ役員7人が出席した。技工料の配分を定めた大臣告示「7:3」問題に言及した清水氏は、「現状では7:3の7をもらっても大阪の最低賃金さえ出せない状況であり厳しい」との認識を示し、「タイムスタディーに基づいた技工料金を求めている」と述べた。

協会は「7:3」でも税を上げる理由の一つになっている。協会は「保険で良い歯科医療」運動を紹介した上で、「歯科技工士や歯科衛生士の問題も含め、国民に理解してもらいながら進めていきたい」と話し、今後とも懇談の開催を要請するとともに技工危機打開に向けて協力を呼びかけた。

大阪維新の会が春の府市ダブル選で勝利し、いっせいに地方選挙で府・市両議会で大きな勢力になった。「都構想」「万博」「カジノ」などのキーワードと「大阪の成長を止めるな」というキャッチフレーズが有権者の希望になったのだろうか。私はこの党が目指す大阪の姿に疑問を感じる。元府知事・市長の橋下徹氏が大阪府政に登場し10年。維新政治は府民市民いじめの政策を強行してきた。

住吉市民病院を廃止し、千里救命救急センターへの補助金を廃止、歯科医師会休日診療所補助金をカット、国保料の大幅引き上げにつながる国民健康保険料の府内統一。平和の問題でも「自衛隊に終止符を打つべし」(松井代表)などと、国政では安倍政権に憲法改正をけしかけている。年金を減らし続け、消費増税で国民生活に痛みを押し付ける安倍政権へ立憲民主や共産党など野党が内閣不信任案を提出した。これに対し、衆議院の反対討論では維新の足立康史議員が「共産党と同じ行動をとるのが死んでも嫌だ」と言い、反対した。問われているのは国民の声を無視し続ける安倍政権の姿勢ではないのか。不信任案の中身より「反共」を優先する不見識にあきれる。参議院選では安倍政権とその補完勢力の維新に厳しい審判を下し、くらし・平和を大事にする政党へ希望を託したい。

安倍政権と維新に審判を

小山榮三 (枚方市)

談話室

だんわ室

咀嚼玩味⑫



その先生方の予想は、悔しいが過大評価である。予防歯科に二大口腔疾患を根絶する神通力はない(今の科学では)。悪い「細菌叢、咬合、遺伝要因、食嗜好、生活習慣、経済状態、教育」などなど、健口を害する因子は多種多様、予防歯科の力は全てにはそうそう及ばない。

連載を始めてから、マメにネタ探しをしている自分に気がついた。まるで道に落ちていた小銭を探す小学生だ。でも、それも今日で終わり。ところが今日、編集者氏から会いたいと連絡が。まさか連載継続の依頼じゃ…私を待っているものは？

予防歯科の真骨頂



大阪大学歯学研究科 教授

天野 敦雄

この連載も12回目。編集者氏との約束は連載12回だったから、これが最終回。私の記事を愛読して下さった御方、あるいは目障りと感じていたあなた、最後までなればどなた様とも別れが惜しい。が、人生に別れは付きもの。振り向いてはいけない。私にだって未来はある(あまり長くはないが)。さあ、次は何が私を待っている？

予防歯科の真骨頂は歯の早逝を防ぎ、歯の寿命を延ばすことにある。歯に永遠の命を与えるわけではない。車に長く乗るためには、日頃の手入れとプロのメンテナンスと修理が不可欠。歯だって同じ。セルフケアの質向上と、プロによるメインテナンスと修理で歯を長生きさせる。これが予防歯科である。

8020運動によって多くの歯が残る。そのお陰で歯科受診患者数が増えたのを存じだろうか。歯の修理とメインテナンスを求める中高年が増えたのである。この患者さん方はどこに行ったかという、各地の歯科医院である。予防歯科が嫌いな院長先生も期せずして「防ぎ・守る」に貢献してくれたのである。

人の歯は60代になって急に壊れ始める。一度削った歯の寿命は生えてから50年かもしれない(私見)。歯に予想もしなかったことが起こる。割れた・欠けた・折れた、そして抜けたとなる。セメント質剥離で病巣を作ることもある。令和の時代、増える高齢者の歯をどれだけ長生きさせられるか、予防歯科の真価が問われる。